

No.058 蒲郡運送(株) 【輸送モード:トラック】

「安全対策専属職長を新規雇用し、小集団活動の実践、基本の徹底を図り安全体制を構築」

1. 概要

企業情報

所在地	愛知県蒲郡市浜町 94 番地 8			創立	1947 年
年 商	15 億円	人員数	121 名(乗務員 100 名含む)	資本金	1,200 万円
拠点数	本社及び豊橋営業所、 播豆営業所の計 3 拠点		車両等	84 両（うち大型 5ton 以上：61 両、 中型 5ton 未満：23 両、 フォークリフト：6 両	
事業内容	一般貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、港湾運送事業、損害保険代理業 他				
輸送品目	医療機器、事務機器、プライウッド他				
取引先	カリツー株式会社、(株)ニデック、三興プライウッド(株)、出光興産(株)、(株) 中野工業所、(株)スタイ、飯島精密工業(株)、蒲郡市給食センター他				

組織的安全マネジメントの特長

安全体制を構築する上で、他の業務との兼務では中途半端になるとの考えから、新たに安全対策専属の要員(職長)を専属の人材として雇用し、点呼および小集団活動の充実からスタートし、リーダーを選任して指導を行っている。
事故が発生した場合、事故惹起者が所属するグループ員全員を集合させて事故要因と対策を討議している。週末の休日にグループ全員が集合することから、事故惹起は自分だけの問題ではないと痛感し、その意識改善が事故再発防止に繋がっている。
指差呼称の実施により製品事故が半減したと荷主より言葉をいただいている。製品事故は一瞬の見落としにより発生するものであり、指差呼称をすることで「区切り」のある作業を行う指導をしている。

調査者所見

大きな事故を契機として安全に対する本格的な取組みが実施された。その際、一からの組織づくりとなり、試行錯誤を繰り返してきた。その中で、外部より安全対策専属の職長を招き、この方を見本として、リーダー層を育てることで今の組織の基礎をつくってきた。 また、新たに点呼者を雇用するなど、基本を徹底することで安全管理体制を整備してきた。 これらの社内を一新する取り組みの積み上げにより、若手への安全、品質等の技術継承と組織の充実、事故の減少につながってきた事例である。

調査情報

調査日	2010 年 3 月 19 日	訪問先	本社及び車庫
対応者	代表取締役、車輛課長		

(注) 企業情報等の内容は調査日を基準日とした内容である

2. 会社の概要、創業からの成長経過

1947年に創立し、蒲郡駅前に事務所を構えて通運事業を開始し、ミカンなどの農産物や海産物の輸送を始めた。

その後、繊維、ロープなどの輸送や1955年頃からはベニヤ材や自動車部品等の輸送も担い、1966年に蒲郡市栄町、1982年に現在の浜町に本社を移転し、地元企業の発展とともに、成長を続けてきた。

現在は、自動車部品の輸送が6割を占め、医療機器や精密機器、事務機器等の輸送も行っている。お客様の工場の製造工程、時間スケジュールに合わせた納品、輸送も行われている。

2007年にグリーン経営認証、2008年に安全性優良事業(Gマーク)を取得し、主に愛知県内の輸送がメインとなっているが、関東圏等への輸送も行っている。

3. トップの考え方

現社長は6代目であり、就任して3年になる。5年ほど前に大きな事故が発生し、それを契機に安全に対する本格的な取り組みが行われ、現在も安全を第一に取り組みを行っている。

安全への本格的な取組を行うために、まず何から実施するか迷いもあった為、カリツー(株)のOBを自社に招いた。現場と安全に詳しく、実務を経験している職長として、社内の新体制作りにも力を借りた。その中でも特に力を入れたのが、小集団活動の実施と点呼の充実であったが、まず最初に小集団活動のリーダーとなる人材の教育からスタートした。

社訓として、下記3項目を定めている。

1. 安全第一が、輸送の使命である。
2. 誠意と努力を持って、製品を扱い良品を良品のまま届ける。
3. マナーとモラルを持って地域社会に貢献する。

また、環境保全活動として、以下の環境基本方針を掲げている。

1. 法規則を遵守し、環境保全に努めます。
2. 安全運転・作業に努め事故撲滅を図ります。
3. エコドライブなど、省エネルギー運動を推進します。
4. 環境保全に関する教育、啓蒙活動を実施します。
5. 廃棄物の適応処理、リサイクルを推進します。
6. 本方針は、広く社外に公表します。

これまで、地元の発展と一緒に成長し、今後も地元への貢献、乗務員とその家族のための堅実な経営を目指したいと考えており、若い人への指導を継続し、技術、安全等の技術の継承を図りたいと考えている。

4. 組織的安全マネジメントへの取り組み

A) トップのコミットメントと行動

ポイント	CL 項目※
◆安全体制を構築する上で、他の業務との兼務では中途半端になるとの考えから、新たに安全対策専属の要員(職長)を専属の人材として雇用し、点呼および小集団活動の充実からスタートし、リーダーを選任して指導を行っている。	A 1、A 2 B 1、B 4 C 5
◆各グループに目標の立案とその達成状況について発表させることで、各グループで競い、切磋琢磨することも重要と考えている。	A 1、B 1 C 2、C 5

※CL 項目とは、組織的安全マネジメントチェックリストの項目である。項目の内容については「7. 組織的安全マネジメント チェックリスト自己評価結果」参照。

- ・安全体制がしっかりしている運輸会社から、OB を招き、アドバイスを受けながら体制を整備した。他の業務との兼務では中途半端になってしまうとの考えから、安全対策専属の「職長」として採用した。点呼および小集団活動の実践と充実が最初の取り組みであり、リーダー（グループ長）を選任して指導を行った。
- ・点呼では、アルコールに関することは勿論のこと、酒気帯び運転、健康等のチェックを重点項目に上げて取り組んだ。また、報告、連絡、情報等に関する全員への周知、徹底に重点を置いて取り組んだ。
- ・24 時間体制の点呼に対応するために、新たに点呼者として 4 名を雇用した。
- ・経営上、新たな人員雇用は大変厳しかったが、体制を整備する為に不可欠と考え、人員体制を増員した。
- ・小集団活動の実践では、編成を行い、リーダーを選任して指導を行った。
- ・安全体制の構築に当たっては、始めたからには、絶対に止めないとの考えで継続し、約 2 年かけて定着化させた。
- ・小集団活動や点呼など通じて安全指導を行い、安全体制を固めていくことで、乗務員の意識も「仕事をしてあげている」との考えから、「仕事を頂いている」との考え方に変わっていった。
- ・各グループに目標立案と達成状況について発表させることで、各グループで競い、切磋琢磨することも重要と考えている。

B) マネジメントシステム

ポイント	CL 項目
◆職長、ブロック長、グループ長という階層制になっており、『安全・品質向上活動計画』の内容が各グループの目標まで落としこまれ、グループ活動が行われている。	B 1、B 4 C 5
◆グループ長については、以前は会社の方針で年功序列による選任をしていたが、まとめ役を務められることが大切であることから、現在では本人の意向も重視して若手も選任するようにしている。	B 1、B 4 C 5

【人事・マネジメント関連について】

- ・毎年、『安全・品質向上活動計画』が立案、実施され、進捗状況の確認が行われている。2009 年度の年間重点目標は「保つ安全、支える品質、つくる信頼」であり、抑止目標として、交通事故、製品事故、環境公害件数の目標を定めている。燃費向上目標は全社共通で前年比 6 %改善を掲げている。
- ・上記を実現するための活動内容を、安全・品質、運行管理、啓蒙活動の三区分で定めている。
- ・また、『環境行動計画』も定め、環境教育、エコドライブ、低公害車導入、自動車点検整備、廃棄物及びリサイクル、管理部門の環境保全のそれぞれについて具体的実施項目を計画している。
- ・安全対策専属の職長を中心に、小集団活動の実践、充実を図ってきた。職長の下に 2 名のブロック長がおり、第一ブロック、第二ブロックの責任者となっている。第一ブロックに 6 つ、第二ブロックに 3 つの計 9 つのグループが編成されており、1 グループが 8 人から 11 名の構成となっている。
- ・ブロック長は業務に関する知見があり、まとめ役を務めることも出来る人であり、本人の承諾のもとに選任している。
- ・グループ長については、以前は会社の方針で年功序列による選任をしていたが、まとめ役を務められることが大切であることから、現在では本人の意向も重視して若手の人も選任するようにしている。
- ・各グループ長は、『安全・品質向上活動計画』や『環境行動計画』の内容をグループ別の内容に落とし込んでグループとしての目標を設定し、グループ全員に説明している。
- ・各グループで設定された目標は、翌月に発表、周知されている。
- ・乗務員の平均年齢は、約 47,8 才である。

【情報の活用、会議等について】

- ・社訓が社員全員に配布されており、全員が毎朝唱和している。
- ・会社としての全体会議のほかに、グループ長会議を毎月 1 回、第 4 土曜日の午前中に、開催している。グループ長会議では、安全月間や省燃費などの経営、安全、目標の設定に関する討議が行われている。

- ・グループ長会議には、社長のほか、安全担当部長、ブロック長、グループ長、書記長が参加し、約 15 名の参加者により開催されている。
- ・事故事例ニュース掲示板が設置しており、自社に限らず発生した事故事例等を掲示して全社員に周知している。
- ・小集団活動を毎月 1 回実施している。
- ・デジタルタコグラフの導入により、点呼時に各乗務員に対して、走行速度、回転数などの指導を行えるようになった。

【安全に関する費用について】

- ・デジタコは、当初、燃費向上と利益を上げることを目標に導入した。
- ・燃費を良くしようとするのが、安全運転への効果に繋がっている。
- ・活動が時間外の場合には、全員の手当てが支給されている。

C) 教育訓練制度

ポイント	CL 項目
◆乗務員の指導においては、若手を育てる観点から、職長による直接指導ではなく、グループ長が指導を行っており、これによって、グループ長も自ら自己研鑽する効果が生まれている。	C 1、C 2 B 1
◆事故が発生した場合、事故惹起者が所属するグループ員全員を集集合させて事故要因と対策を討議している。週末の休日にグループ全員が集集合することから、事故惹起は自分だけの問題ではないと痛感し、その意識改善が事故再発防止に繋がっている。	C 2、C 3 C 5、B 1 D 1
◆各グループが、目標立案と達成状況について発表しており、それによる各グループで競い、切磋琢磨することが、スキル向上に繋がっている。	C 2、C 5

【採用・新人研修関連について】

- ・採用は、適宜、当該職種に絞った形で(例えば長距離輸送等)、募集している。
- ・採用時の面接は、以前は 1 名による実施であったが、現在は多くの目で確認することが必要との考えから 4 名で実施し、部長が採否の最終判断を行っている。
- ・運転のプロとなることから、免許証の色が青色の人は望ましくないと考えている。
- ・入社してからの 3 カ月は試用期間であり、その間に座学と実技による研修を受け、適性診断も受診させている。
- ・運転業務だけでなくフォークリフト操作も行う場合には、更に 1~2 週間の指導期間が加わる。
- ・1 人前になるには、最低でも 1 カ月以上要する。
- ・今後は、中型免許も取得している方の採用も検討している。

【乗務員の研修等について】

- ・座学講習会を年に4回実施している。省エネ運転講習会は、年に2回実施している。
- ・過去トラブル対策ルールブックを作成し、研修に活用している。
- ・安全体制の構築当初は職長自らがリーダーシップを発揮し、指導してきたが、現在は、若手を育てる観点から、職長が前面にできることはできるだけ避け、直接指導ではなく、グループ長等が乗務員に指導する体制をつくっている。グループ長も指導する立場になり、自己研鑽する意識が生まれている。
- ・精密機器や危険物を輸送する上で、各乗務員が製品の特性を理解して安全、品質の確保に努めている。
- ・以前、社長が務めていた運輸会社のフォークリフト道場に参加している。フォークリフト操作訓練を年に3回実施している。
- ・中部トラック総合研修センター、物流大学講座などの外部の研修や自動車メーカー主催によるエコドライブ講習会にも参加し、警察署や保険会社から講師を招くこともある。

【事故の再発防止】

- ・事故が発生した場合には、当事者と面談によって、事故状況の聴取が行われる。
- ・また、事故惹起者が所属する当該グループは、その週の土曜日に集合して事故要因の分析と対策が討議され、その結果を事故惹起者が全員の前で発表している。
- ・休みの日にグループ全員が集合することから、事故惹起者は全員に休日参加してもらうことに対して恐縮し、その意識も事故再発防止効果に繋がっている。
- ・事故分析は、各種のシートを用いて分析され、指定帳票である事故分析報告書のフォーマットに従って報告されている。
- ・ヒヤリハットの収集では、乗務員が文書を書く苦手意識があるため、点呼時に乗務員から状況を聞き取り作成し、収集している。

【小集団活動について】

- ・安全への本格的な取組みの1つとして、小集団活動の実践、充実を図った。
- ・以前は、乗員が集まる小集団活動がなく、機会もなかった。
- ・当初、活動発足時は休憩などの座談会的な活動であったが、2年が経過して乗務員の気構えも変わってきている。
- ・毎月第1土曜日の半日に全員が集まり、社長による講話の後、各グループに分かれてグループ活動による安全、品質に関する情報交換、目標等についての討議が行われている。
- ・小集団活動の構成としては、職長の管理の下に大きく2つのブロックが編成され、その第1ブロックに3グループ、第2ブロックに6グループが構成され、各グループ大体11名の体制となっている。
- ・昨年からは、職長の負担を減らし、若手を育てるために、グループを大きく2つのブロックに分け、2名のブロック長で管理する体制に変更した。
- ・各グループが、目標立案と達成状況について発表しており、それによる各グループで競い、切磋琢磨することが、スキル向上に繋がっている。
- ・小集団活動等による安全活動については、時間外手当を支給している。

D) 現場管理

ポイント	CL 項目
◆現場パトロールは、安全担当の次長と職長の 2 名で実施されており、定期巡回として毎月 3 回実施されている。	D 4、B 1
◆指差呼称の実施により製品事故が半減したと荷主より言葉をいただいている。製品事故は一瞬の見落としにより発生するものであり、指差呼称をすることで「区切り」のある作業を行う指導をしている。	D 1、D 4 C 2

【日常業務等について】

- ・社訓が社員全員に配布されており、全員が毎朝唱和している。
- ・配車状況等について、法令遵守はもとより、安全の観点からの指示、指導をしている。
- ・個人面談を年に 2 回実施している。
- ・現場パトロールは、安全担当の次長と職長の 2 名で実施されており、定期巡回として毎月 3 回実施されている。
- ・3 月、6 月、9 月、12 月を安全月間とし、ほぼ毎日現場パトロールを実施する。パトロール先（便名の場合もある）、パトロール対象者（例えば、幹線乗務員、積込乗務員など）、パトロール名、時間を定めて実施する。
- ・1 年のうちの奇数月には、お客様と一緒に往く、関連設備での現場パトロールも実施している。
- ・現場パトロールは、誰が行っても実施出来るようにチェックリスト（『最重点順守事項チェックリスト』）を作成している。指差呼称、トラック外周回り、トラック積載方法、給油時の油漏れ、フォークリフトのシートベルト着用の各区分に対し、チェック項目を定め現場パトロールにて使用している。
- ・現場パトロールで問題が見つかった場合は、程度にもよるが、お客様の工程スケジュールに影響しないように、その場では注意せず、後で指導するようにしている。
- ・指差呼称の実施により製品事故が半減したと荷主より言葉をいただいている。一方で指差呼称を実施しない乗務員もいると指摘された。製品事故は一瞬の見落としにより発生するものであり、指差呼称をすることで「区切り」のある作業を行う指導をしている。
- ・デジタルタコグラフの導入により、点呼時に各乗務員に対して、走行速度、回転数などの指導を行えるようになった。
- ・また、デジタルタコグラフにより点数評価が出されるようになり、各乗務員の目標意識が生まれた。
- ・環境保全活動として、ゴミを減らすための 4R 運動を展開している。

5. 顧客や取引先との関係

創業開始より、輸送する製品が時代とともに変わる中、これまで地元企業の発展とともに、地元企業の発展とともに、成長を続けてきた。

蒲郡運送(株)の「車両の走行速度が遅い」と会社宛にクレームの電話を頂いたことがあり、昔では考えられなかった乗務員の意識の変化を改めて再認識している。

年に 2 回の公道の清掃活動も行われており、これまで成長してきたお蔭である地域企業や地元の方々を大切に、今後も地元の発展に貢献していきたいと考えている。

6. 安全に関する実績データ

【交通事故発生率】

車両を擦ったなどの軽微な事故や、仮に、過失割合が 0 であっても、事故件数としてカウントしている。事故件数は下記のとおりである。

年	事故件数(件)	走行距離:約(km)	交通事故発生率(件/10 万 km)
平成 20 年	15	5,514,360	0.27
平成 19 年	16	5,848,963	0.27
平成 18 年	23	5,321,624	0.43

計算式：事故件数÷走行距離×10 万 km

7. 組織的安全マネジメント チェックリスト自己評価結果

区分		項目		評価
A	トップのコミットメントと行動	A 1	行動見本（現場巡回）	イ
		A 2	経費予算配分	イ
		A 3	賞罰制度	ア
B	マネジメントシステム	B 1	理念・行動指針	イ
		B 2	マネジメントサイクル	イ
		B 3	情報管理のしくみ（安全の実績・情報）	ア
		B 4	人員配置と異動	イ
		B 5	管理者育成	イ
		B 6	協力業者管理（関連会社等）	イ
		B 7	お客様の評価	イ
C	教育訓練制度	C 1	採用・新人教育	イ
		C 2	運転スキル、作業スキル訓練	イ
		C 3	事故分析、再発防止教育	イ
		C 4	KYT、ヒヤリハット	ア
		C 5	小集団活動（班活動）	イ
D	現場管理	D 1	ルールの順守	ア
		D 2	日常点検・整備	ア
		D 3	整理、整頓、洗車、清掃	ア
		D 4	現場巡回指導（街頭指導）	ア
		D 5	点呼・朝礼	イ
		D 6	身だしなみ、服装	イ
		D 7	挨拶、返事、報告	ア
		D 8	時間管理、生活管理	ア
		D 9	協力意識	ア

※組織的安全マネジメントのチェックリスト（詳細）は、国土交通政策研究所のホームページから入手可能。検索エンジンで「国土交通政策研究所」と入力。“●研究会・アドバイザー会議等”のページにある“運輸企業のための組織的安全マネジメント手法に関する調査”「第3回アドバイザー会議資料（平成21年3月17日）資料3」の郵送調査票参照。



写真 1
車庫風景



写真 2
車両風景



写真 3
点呼場所風景



写真4
デジタルタコグラフ
解析端末機



写真5
事務所内掲示風景
社訓

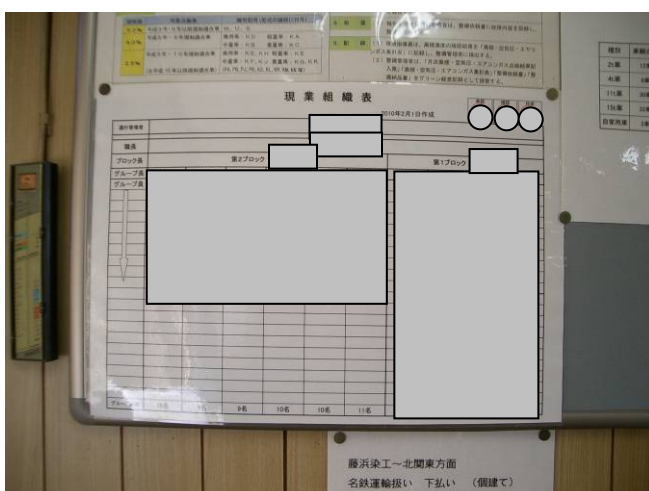


写真6
事務所内掲示風景
現業組織表



写真 7

事務所内掲示風景

安全・品質向上活動計画

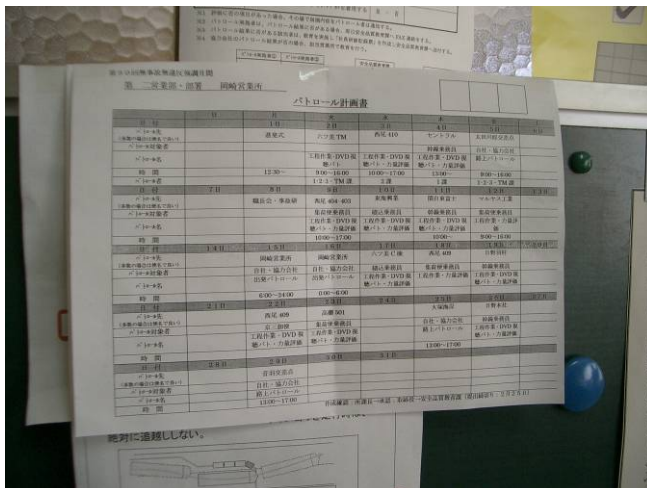


写真 8

事務所内掲示風景

パトロール計画書



写真 9

事務所内掲示風景

最重点順守事項チェック

シート



写真 1 0
事務所内掲示風景
事故事例ニュース掲示版



写真 1 1
事務所内掲示風景
環境方針取組み掲示版



写真 1 2
事務所内掲示風景
4 R 活動

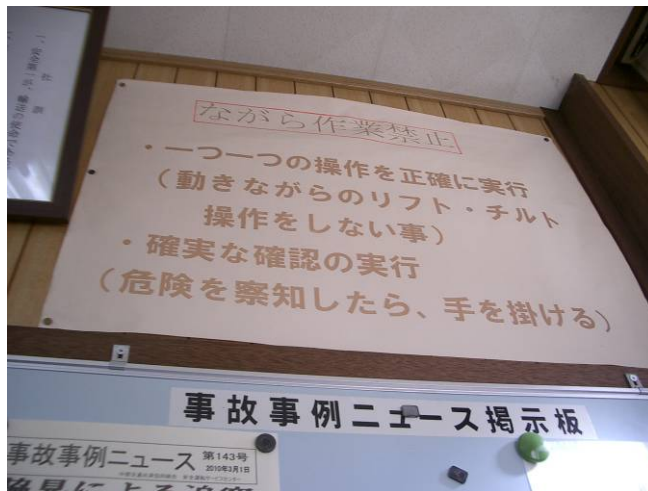


写真 1 3
事務所内掲示風景
ながら作業禁止



写真 1 4
事務所内掲示風景
指差呼称の実行



写真 1 5
事務所内掲示風景
お客様からの表彰状

第1版 2009

再発防止対策書

◆事故発生後、1週間以内に提出のこと

◆提出ルート：輸送業者→

発生日時	2009年 月 日 時 分 頃 (天候 晴れ)	車種	4t (11t) 15t	他 ()
発生場所	構内	車名	便名	
社名		車面	出荷先	
名前		納入先	納入先への影響	
入社日数	年 月 日	無 有 ()		
当事者				
事故の種類	交通事故	輸送中の製品破損・荷役作業中の事故・油漏れ・その他 ()		
発生状況	製品をトラックに積み込みしている際、出荷場から2段の製品を引き出し、トラックの後部へ下段1p(B4)を搬置きし、上段1p(C4)を左側に積み込んだ。 製品(B4)を搬置きしたまま、次の製品(B4)2pを引き出し右側に積んだ。 その後、右前方から右側のトラックの右後方に向けて荷台の荷姿を確認し、次の製品をどこに積むか見ながら走行してトラックの後に置いて製品に気が付かずリフトの爪で押し、転倒させた(36箱/ハット中20箱)。			
原因追及と対策(なぜなぜ分析シート実施後、記入)	原因 真因 仕組み上の問題点 現象面での問題点 対策 1 危険意識の欠如 車両後方に製品を置いた 安全確認不良 車両周りを走行する時は必ず、端部では一時停止をし、安全を確認する 2 自分一人の作業で気が緩んでいた 身体型で人は居ないと言う思い込み作業 KVTをして安全意識を高める 3 積み付けの高ばかり考えて、仮置き製品を忘れていた 視界に入りにくい場所に製品を置いた 作業性ばかりを考えた 視界に入りにくい場所に製品を置かない 4 到着先での荷役を早く終わらせる意識が強く、確実な作業が出来なかった ながら作業をした わき見をした 積込荷姿確認時にはリフトを停止させ確認する 5			

仕入先役員コメント

承認 確認 作成

仕入先役員コメント

承認 確認 作成

仕入先役員コメント

承認 確認 作成

仕入先役員コメント

承認 確認 作成

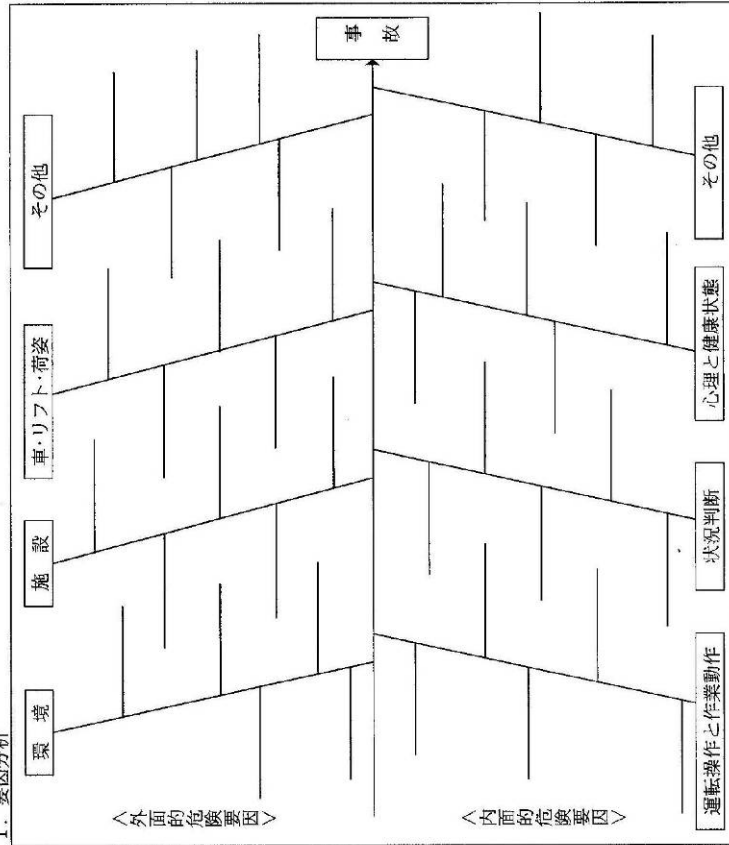
事故分析報告書

提署：	承認	作成
承認		

事故報告書(交通事故・製品事故) 部署 No. 安全教育課 No.

氏名： 事故日： 年 月 日 () 時 分 項
異常発生場所： 異常区分：

1. 要因分析



※是正処置実施結果の確認
是正処置＜当面对策・根本対策＞が完了していることを確認する。



2. 現状を把握したものを書き上げる。本質追究し、しぼりこんだものに◎をつける。

番号	原因	番号	原因
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	

3. 対策 (是正処置)

＜当面对策＞(2. で◎をつけた番号＜原因＞に対する対策をたてる)

区分	番号	なにを	対 策	いつ	どこで	だれが (だれに)
発生者			どのように			
管理面						

＜根本対策・抑止活動＞

区分	番号	なにを	対 策	いつ	どこで	だれが (だれに)
発生者及び関係者			どのように			
管理面						

61-6-2 (2年保管)

なぜなぜシート

原因究明のための事実関係図－現象系のみ－

《不具合内容》							
《原因・寄与度》							

分析シート（発生・分析）

	1	2	3	4	5	(判定)	(対策)

判定 NG:問題あり または OK:問題なし を記入

18